

麻疹・風疹に関する疫学情報

東京都健康安全研究センター

○麻疹

麻疹は、麻疹ウイルスを原因とする感染症です。

一般的には「はしか」とも呼ばれ、毎年春から初夏にかけて多くみられます。小児期に多いといわれていますが、最近では成人での発症もみられ、集団感染事例も報告されています。

【感染経路・感染期間】

空気感染が主たる感染経路ですが、その他に、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛まつ感染」、及びウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。感染力はきわめて強く、感染した人の 90%以上が発症します。周囲へ感染させる期間は、症状の出現する 1 日前（発疹出現の 3～5 日前）から発疹消失後 4 日くらいまでです。

【潜伏期間・症状】

10～12 日間の潜伏期間の後、38℃程度の発熱及びかぜ症状（咳、鼻水、目の充血等）が 2～4 日続き、その後 39℃以上の高熱とともに発疹が出現します。症状は 7～10 日で回復します。肺炎、脳炎といった重い合併症を発症することもあります。

【治療】

特別な治療法はなく、つらい症状を軽減するための処置（対症療法）が行われます。

【予防】

唯一の予防方法はワクチン接種です。

➤ 修飾麻疹とは

幼少時に 1 回のみワクチンを接種しているなど、麻疹に対する免疫が不十分な人が麻疹ウイルスに感染した場合、軽症で典型的な症状が現れない麻疹を発症することがあります。このような麻疹を「修飾麻疹」と呼びます。

具体的には、高熱が出ない、発熱期間が短い、発疹が手足だけで全身には出ないなどです。潜伏期間が長くなり、感染力は典型的な麻疹に比べて弱いといわれていますが、周囲の人への感染源になるので注意が必要です。

○風疹

風疹は、風疹ウイルスを原因とする感染症です。

一般的には「三日はしか」とも呼ばれ、春から初夏にかけて多くみられます。学童から思春期に多いといわれていますが、最近では成人での発生もみられ、集団感染事例も報告されています。また、妊娠初期の女性が感染すると、先天性風疹症候群（CRS）※を起こすこともあります。

※先天性風疹症候群（CRS）

風疹に免疫のない女性が妊娠初期に風疹に感染し、風疹ウイルスが胎児に感染することにより、出生児に先天性の心疾患、難聴、白内障等の障害を起こす病気の総称

【感染経路・感染期間】

患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛まつ感染」が主たる感染経路ですが、その他に、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。周囲へ感染させる期間は、発疹の出現する 7 日前から発疹出現後 5 日くらいまでです。感染力は、麻疹や水痘（水ぼうそう）ほどは強くありません。

【潜伏期間・症状】

通常 2～3 週間（平均 16～18 日）の潜伏期間の後、発熱、淡紅色の発しん、リンパ節腫脹が出現します。基本的には予後は良好ですが、関節炎や血小板減少性紫斑病、急性脳炎などの合併症を発症することもあります。ウイルスに感染しても明らかな症状がでることがないまま免疫ができてしまう（不顕性感染）人が 15～30%程度いると言われています。一度感染すると、大部分の人は終生免疫を獲得します。大人が罹患すると、その症状は小児に比べると比較的重いといわれています。

【治療】

特別な治療法はなく、つらい症状を軽減するための処置（対症療法）が行われます。

【予防】

唯一の予防方法はワクチン接種です。妊婦に感染させないためには、本人だけではなくパートナーや周囲の人もワクチン接種することが重要です。

○麻しん・風しん混合ワクチン（MR ワクチン）

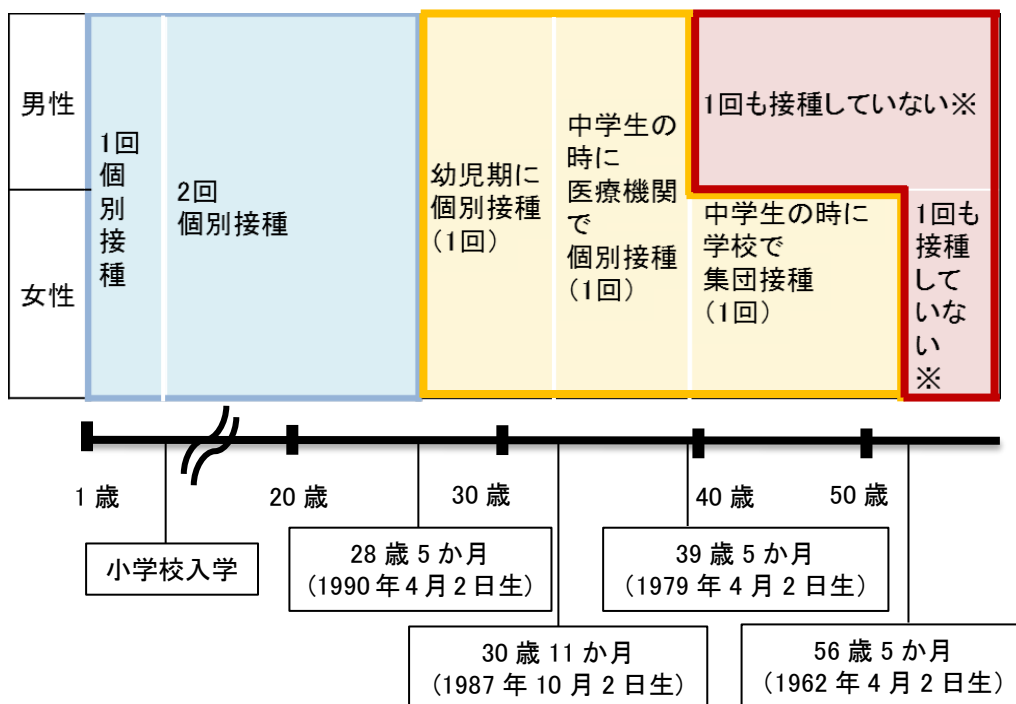
定期予防接種対象のワクチンです。2006 年 4 月から 2 回接種になりました（表 1）。決められた期間内に接種すれば公費となります（窓口は市区町村）。

表 1

第 1 期	生後 12 か月以上 24 か月未満
第 2 期	小学校入学前の 1 年間（5 歳以上 7 歳未満）

定期予防接種が 2 回接種となった 2006 年 4 月以前は接種回数や対象が異なっていたため（表 2）、まだ一度も感染したことがない人の場合は、大人でも免疫が「不十分」、または「ない」人もいます。MR ワクチンは大人になってからでも医療機関で接種することができます（多くの場合は全額自己負担ですが、一部の自治体では費用を助成する制度があります）。

表 2 風しんの予防接種制度の変遷（年代別）



※39 歳 5 か月以上の男性と 56 歳かヶ月以上の女性は風しんのワクチンの接種機会がなかった

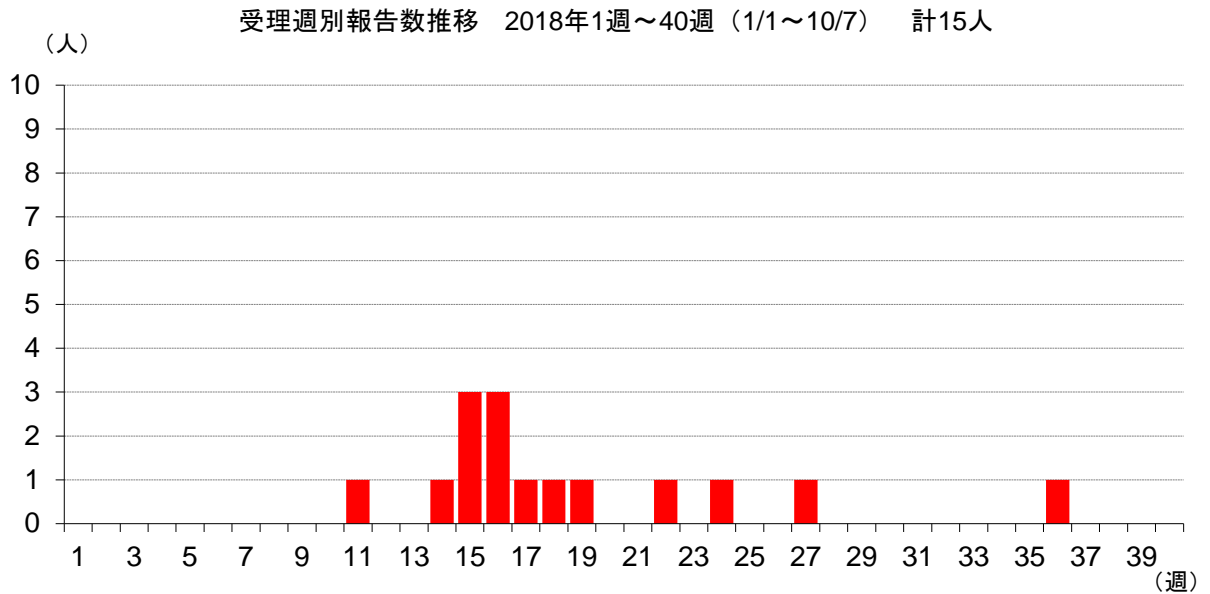
2018 年 9 月 1 日時点

都内における麻しんの発生状況（2018年第1週から40週）

東京都健康安全研究センター

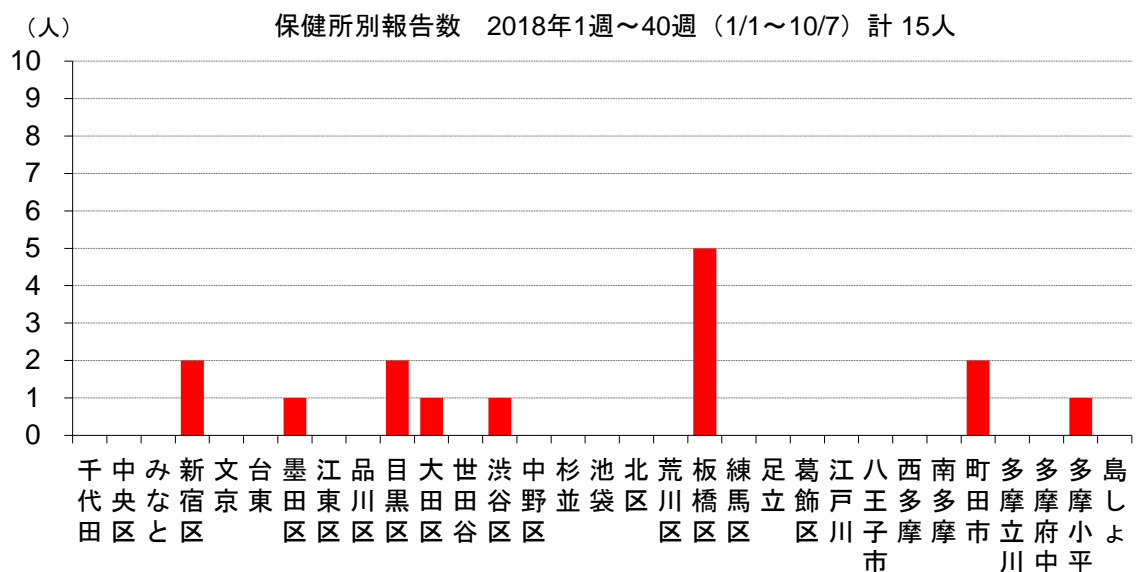
1. 患者報告数の推移

2018年の40週（10/7）までの累計報告数は15人であった。



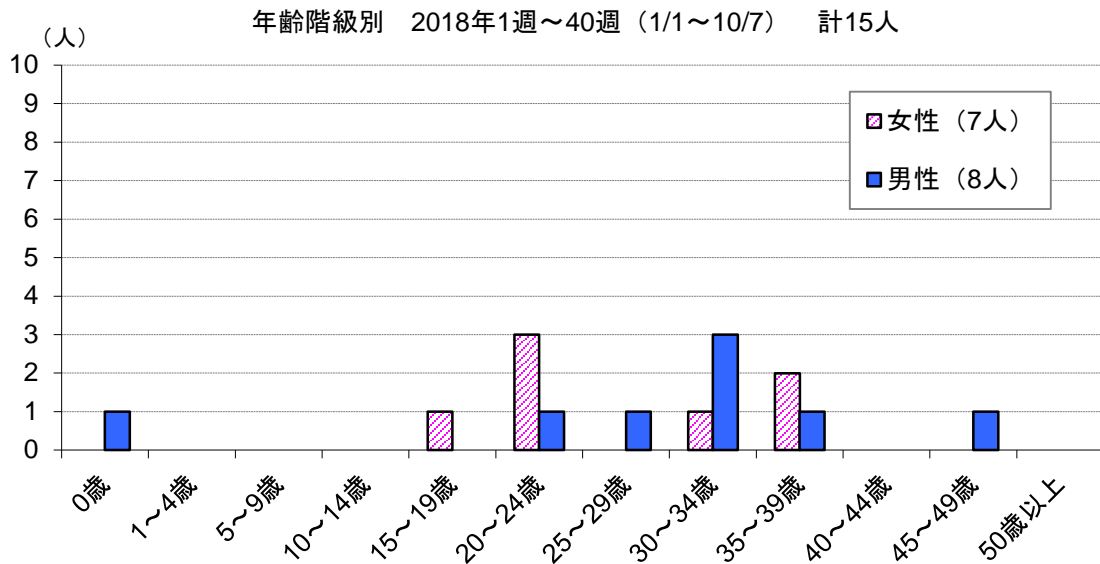
2. 保健所別報告数

31保健所中8保健所から報告があり、報告数は板橋区保健所5人、新宿区保健所、目黒区保健所、町田市保健所各2人、墨田区保健所、大田区保健所、渋谷区保健所、多摩小平各1人だった。



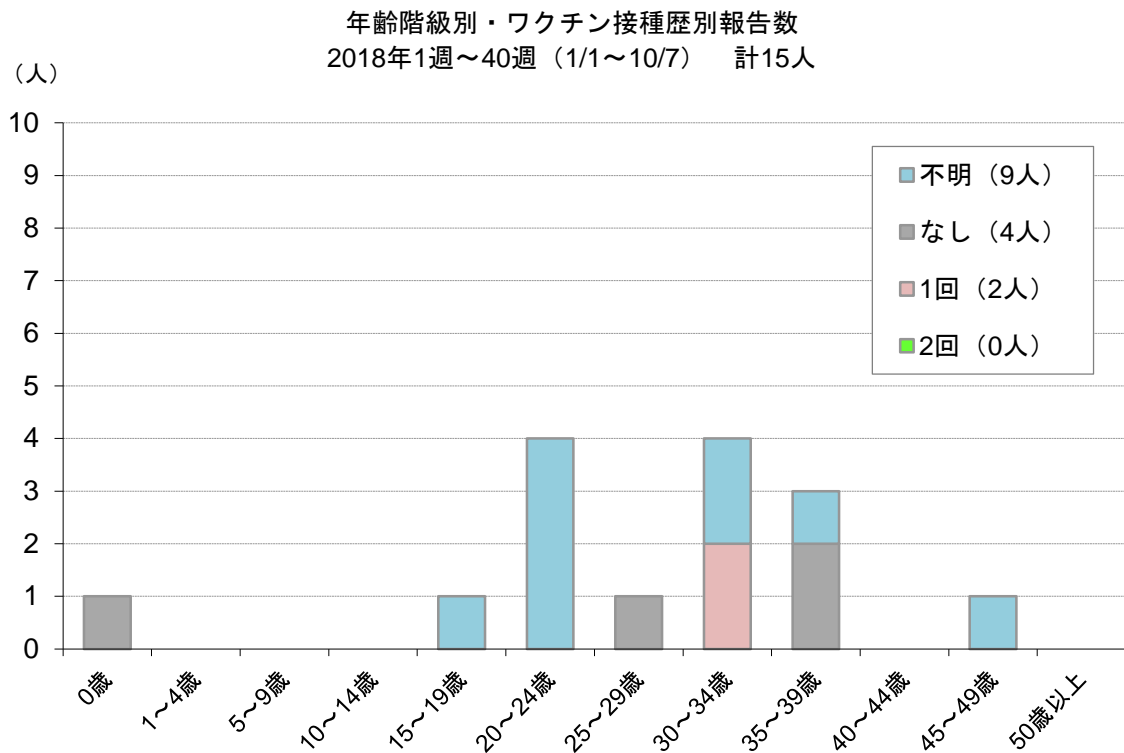
3. 年齢階級別・性別報告数

性別は男性 8 人、女性 7 人で男性の方が多かった。年齢階級別・性別で見ると、報告数が多いのは 20～24 歳の女性（3 名）、30～34 歳の男性（3 名）であった。



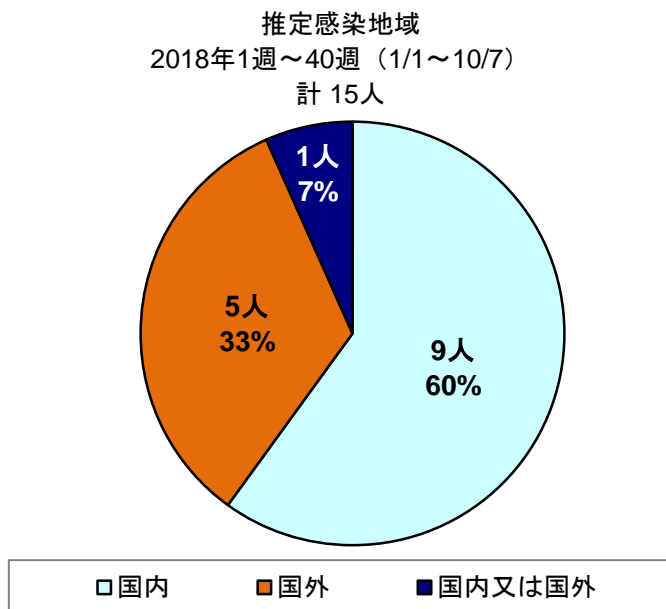
4. 年齢階級別・ワクチン接種歴別報告数

ワクチン接種歴別で見ると、1回接種が 2 人、接種なしが 4 人、不明が 9 人であり、接種なしと不明を合わせた割合は約 87%であった。



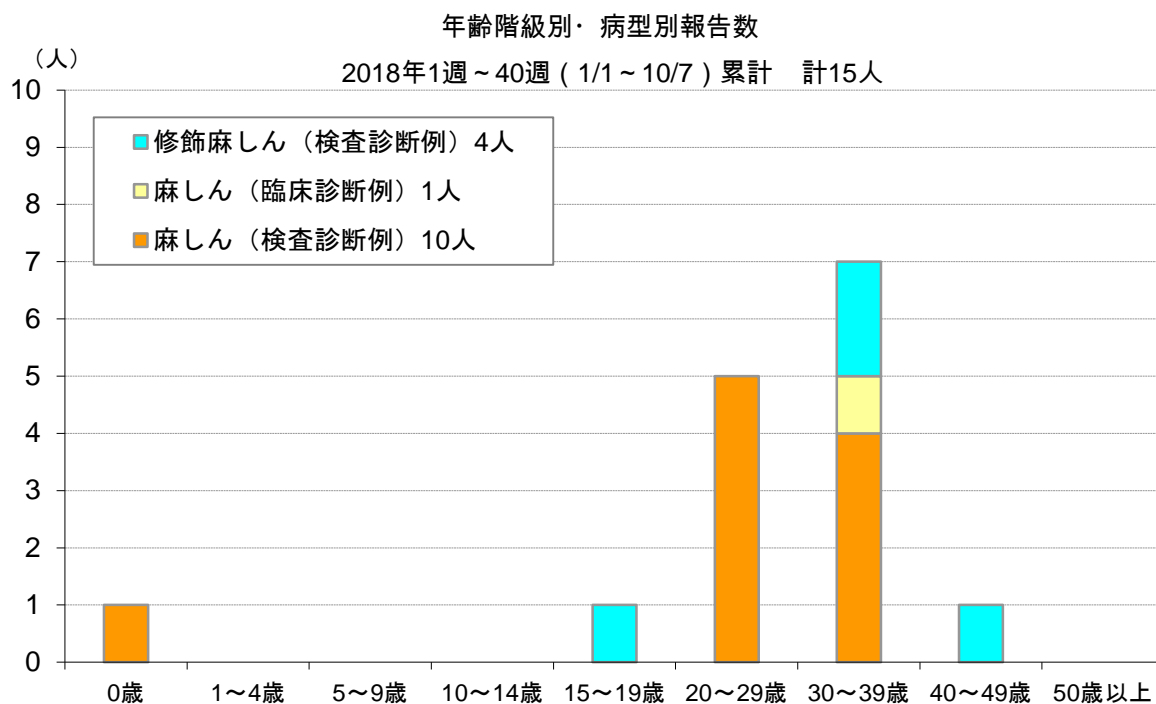
5. 推定感染地域

推定感染地域は「国内」が9人（60%）、「国外」が5人（33%）、「国内又は国外」が1人（7%）であった。昨年よりも推定感染地「国外」は15%増加した。（推定感染地「国内」は22%減少した。）



6. 年齢階級別・病型別報告数

病型別でみると、麻しん（検査診断例）10人、麻しん（臨床診断例）1人、修飾麻しん（検査診断例）4人と、麻しん（検査診断例）が最も多かった。



7. 事例一覧

No	診断週	性別	年齢	遺伝子型	推定感染地域	予防接種歴
1	11週	男	23歳	D8	国外(タイ)	不明
2	14週	女	23歳	D8	国外(タイ)	不明
3	15週	男	39歳	不明	国内	不明
4	15週	女	35歳	D8	国内	無
5	15週	男	30歳	D8	国内	不明
6	15週	女	24歳	D8	国内	不明
7	16週	女	36歳	D8	国内	無
8	16週	女	17歳	D8	国内	不明
9	17週	女	22歳	D8	国内	不明
10	17週	男	46歳	D8	国内	不明
11	19週	女	32歳	D8	国内	1回
12	22週	男	8か月	D8	国外(シンガポール)	無
13	24週	男	30歳	H1	国内又は 国外(中国又はマレーシア)	不明
14	27週	男	29歳	D8	国外(タイ)	無
15	36週	男	33歳	B3	国外(フィリピン)	1回

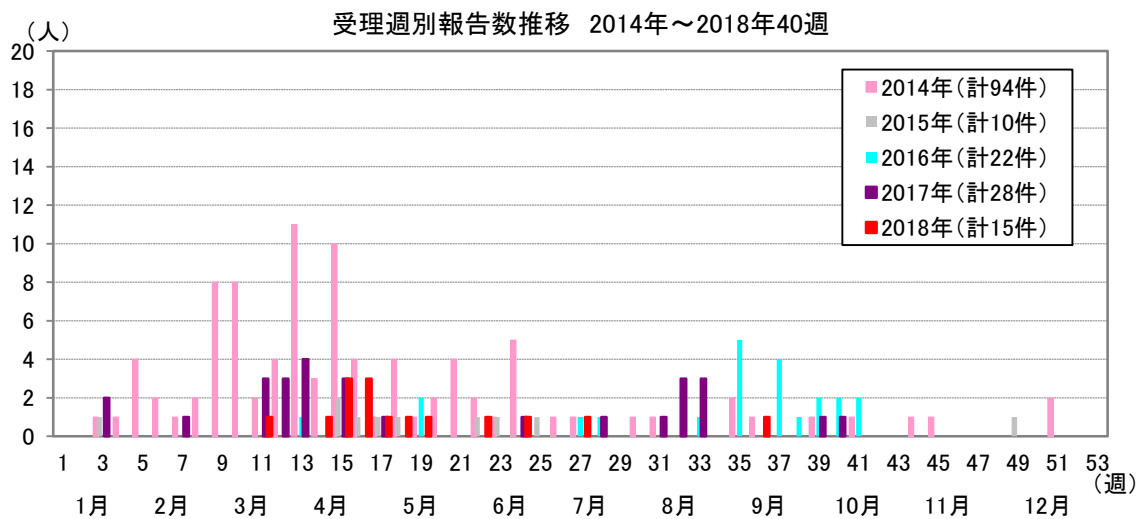
8. 集団発生報告数

集団発生報告はありませんでした。

<参考>

麻しん患者報告数の推移（2014年～2018年40週）

過去5年間でみると、2018年は2番目に少ない報告数となった。

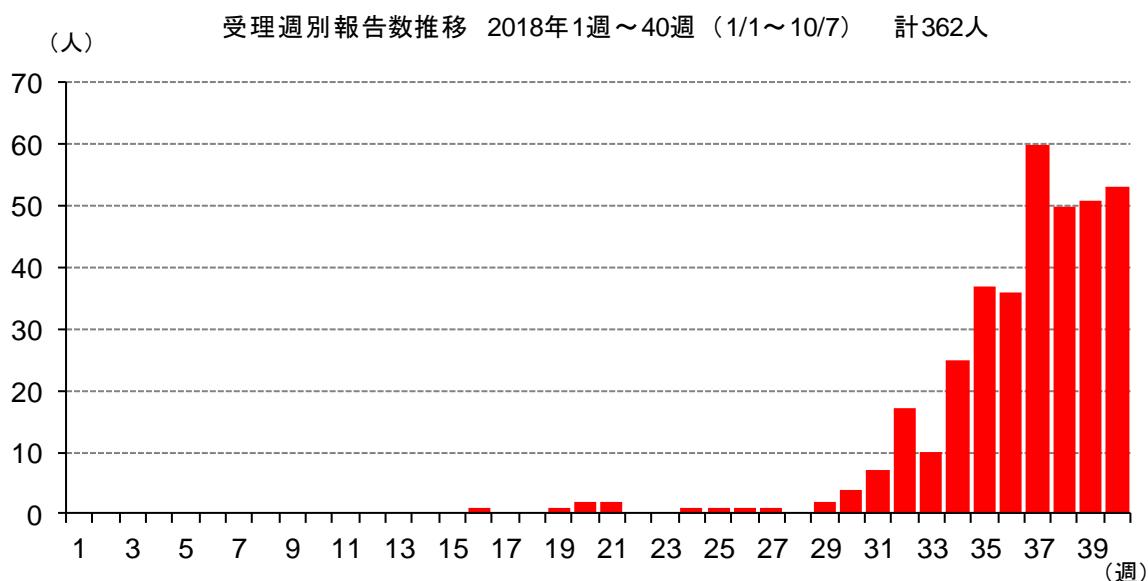


都内における風しんの発生状況（2018年第1週から40週）

東京都健康安全研究センター

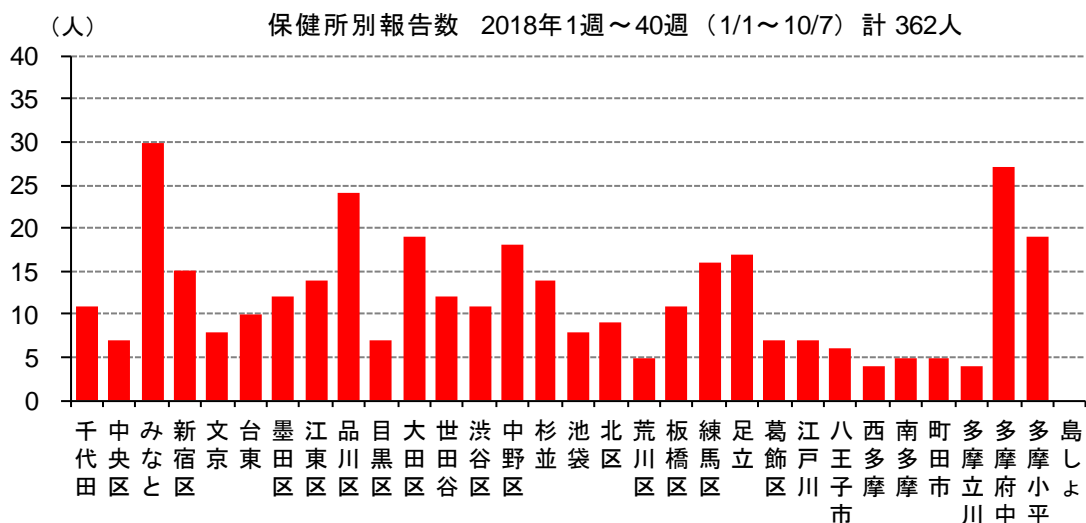
1. 患者報告数の推移

2018年の40週（10/7）までの累計報告数は362人であった。28週まで毎週0～2人の報告で推移していたが、29週（7月）頃から増加傾向が継続している。37週には1週間で60人が報告された。



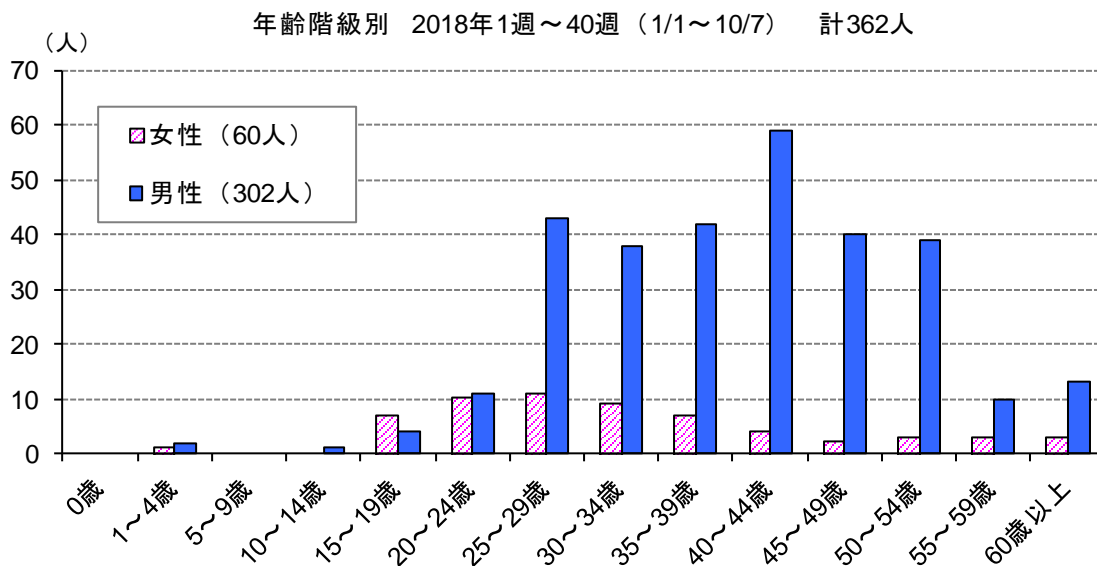
2. 保健所別報告数

31保健所中、島しょ保健所を除く30保健所から報告があった。



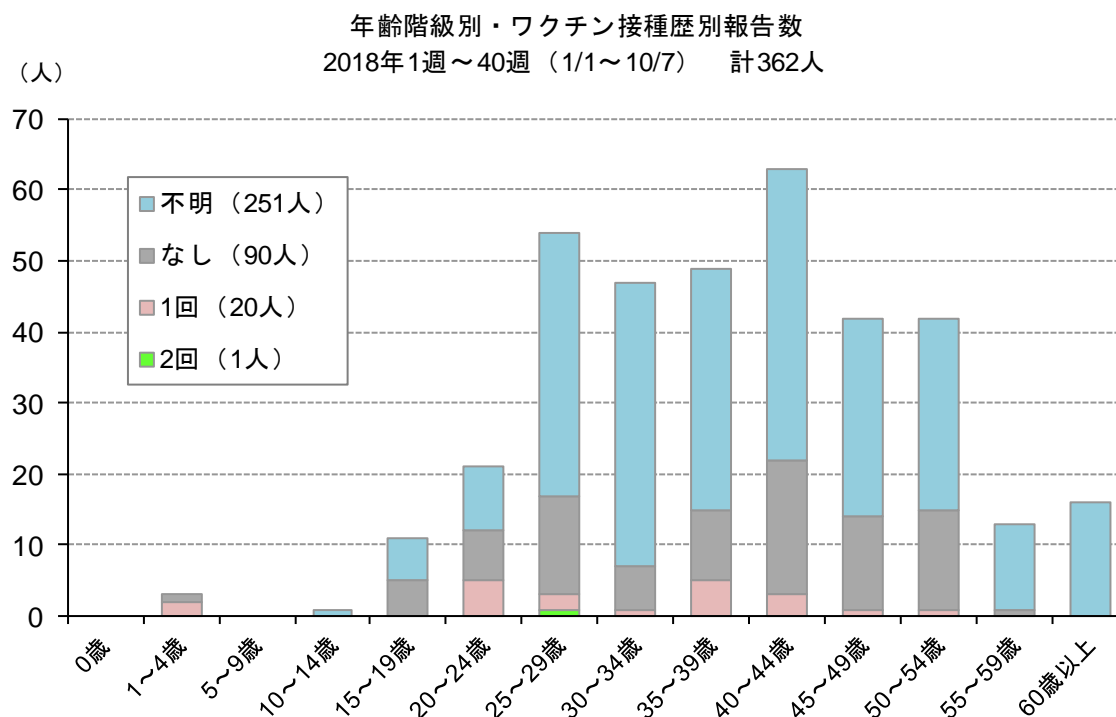
3. 年齢階級別・性別報告数

性別は男性 302 人、女性 60 人と男性の方が多かった。年齢階級別・性別でみると、報告数が多いのは 25～29 歳以降の男性であった。



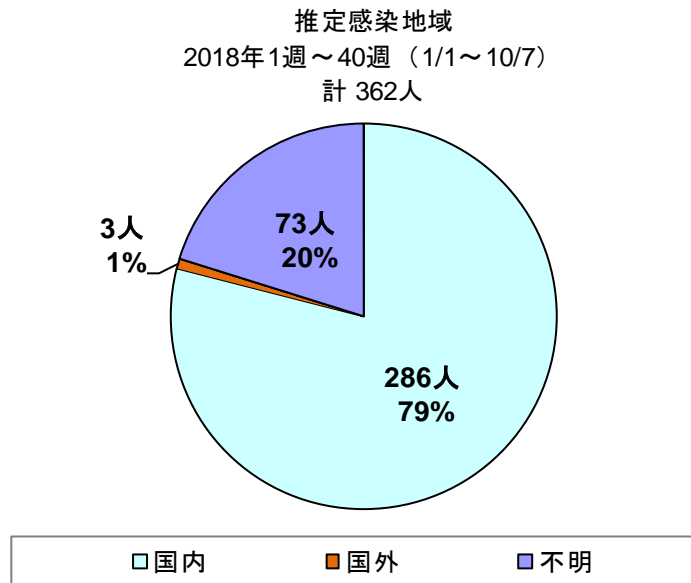
4. 年齢階級別・ワクチン接種歴別報告数

報告された風しん患者をワクチン接種歴別でみると、2回接種が1人、1回接種が20人、接種なしが90人、不明が251人であり、接種なしと不明を合わせた割合は約94%であった。



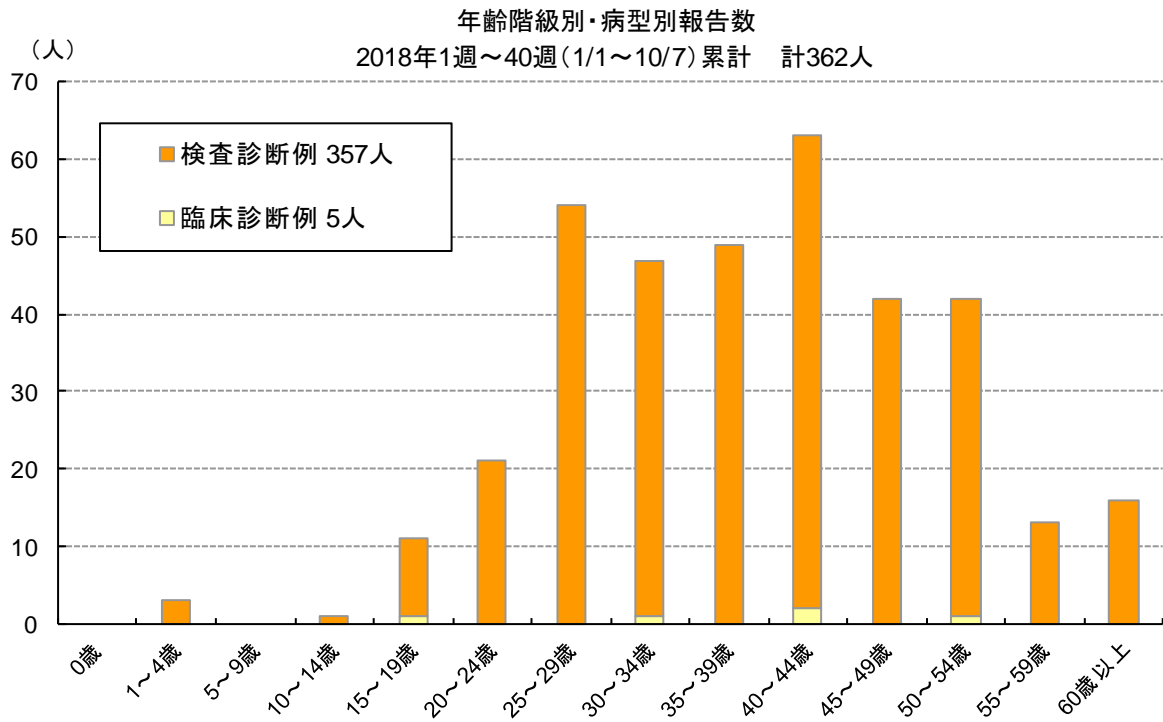
5. 推定感染地域

推定感染地域は「国内」が286人、「国外」が3人、「不明」が73人であった。



6. 年齢階級別・病型別報告数

病型別でみると、検査診断例が357人、臨床診断例が5人と検査診断例の方が多かった。



7 集団発生報告数

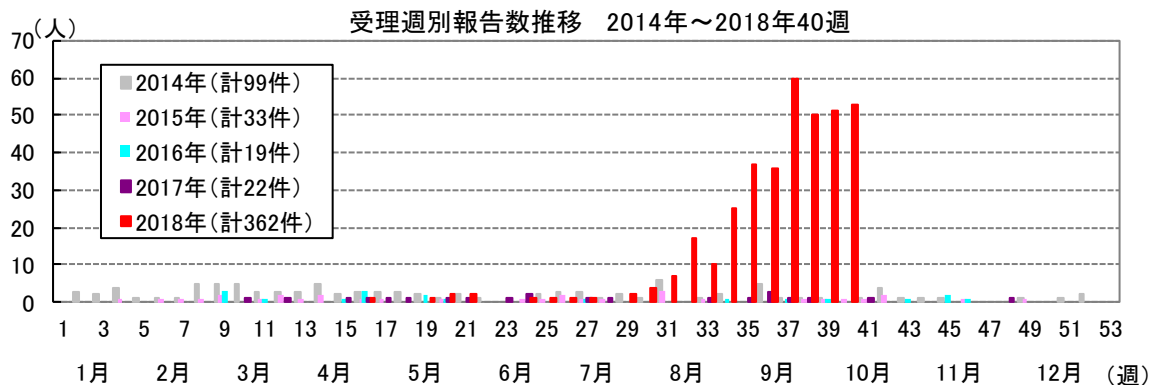
集団発生は14件の報告があり、企業12件、行政事業所1件、学校1件であった。

受理週	場所	管轄保健所	初発発症日	患者報告数
20	企業(システム関係)	多摩府中	5月11日	2
31	行政事業所	江戸川	8月3日	8
31	企業(通信)	品川	8月3日	5
33	企業(娯楽関係)	千代田	8月18日	2
35	企業(通信)	みなと	8月27日	3
36	企業(食品)	大田	9月1日	4
	企業(小売り)	中央	9月4日	2
	企業(自動車)	墨田	8月31日	2
37	企業(旅行)	中央	9月11日	2
38	企業(自動車)	みなと	9月20日	3
	企業(通信)	みなと	9月7日	2
	企業(出版)	中央	9月23日	2
39	企業(スポーツ関連)	みなと	9月22日	2
40	高等学校	多摩小平	9月27日	4

<参考>

1. 風しん患者報告数の推移 (2014年～2018年)

過去5年間でみると、2018年は最も患者報告数が多かった。



2. 先天性風しん症候群 (CRS) 患者報告数

2013年13件、2014年3件の報告があったが2015年以降 CRS 患者の報告はない。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
男性	7	1	0	0	0	0
女性	6	2	0	0	0	0
合計	13	3	0	0	0	0

東京都健康安全研究センターにおけるPCR検査*実施状況

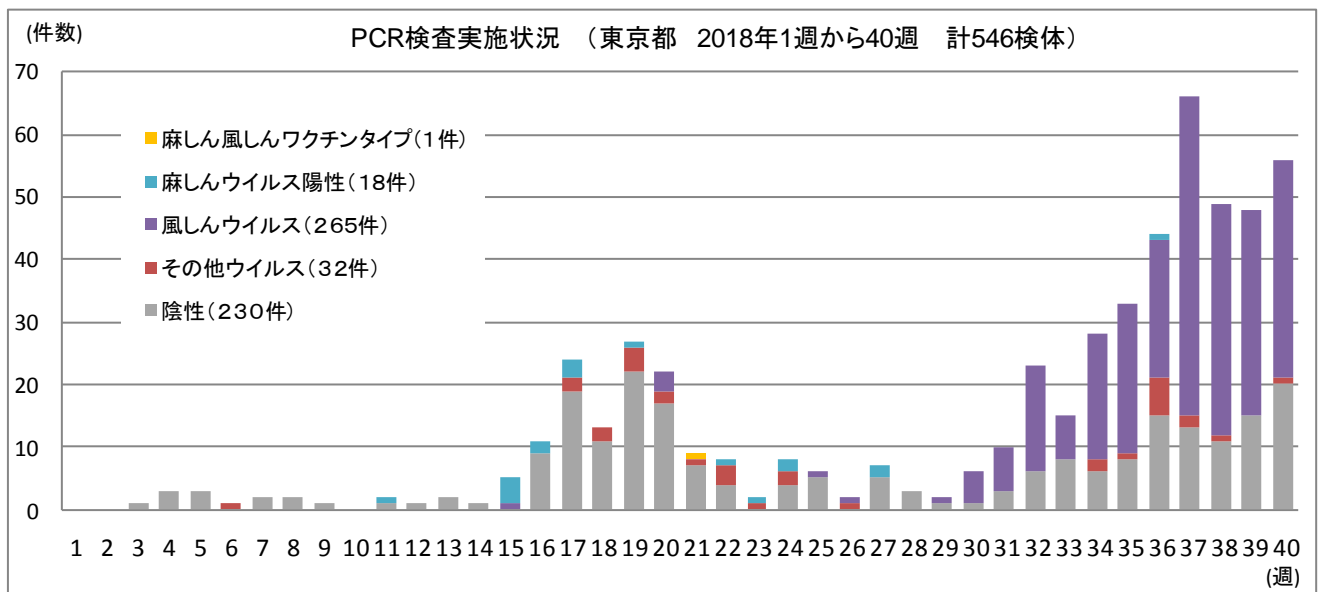
(2018年1週から40週)

東京都健康安全研究センター

東京都では麻しんと診断された患者で協力が得られた場合、当センターに検体を搬入し、麻しんウイルス PCR 検査を実施している。陰性だった場合は、パルボウイルス B19 型の PCR 検査を実施し、2 歳以下では更にヒトヘルペスウイルス PCR 検査も実施することとしている。

2018年1週から40週までで、麻しん・風しんと診断された患者 465 人 546 検体が当センターに搬入され、PCR 検査が実施された。結果は、麻しんウイルス陽性が 18 検体、風しんウイルス陽性が 265 検体、麻しん風しんワクチン型 1 検体、その他のウイルス陽性（パルボウイルス B19 及びヒトヘルペスウイルス 6 型）が 32 検体、陰性が 230 検体だった。

※PCR 検査とは、特殊な酵素を用いて特定の遺伝子配列を増幅することにより標的となる病原体を検出する方法である。検出感度も高く、検出する遺伝子配列を変える事により様々な検査に対応することが出来るため、現在では多くのウイルスの検査に応用されている。



<遺伝子型>

麻しんウイルス (19 検体中遺伝子型が判明した数)

D8 型 : 16 検体 H1 : 1 検体 B3 型 : 1 検体
ワクチン A 型 : 1 検体

風しんウイルス (266 検体中遺伝子型が判明した数)

1 E 型 : 149 検体 2 B 型 : 2 検体 ワクチン 1a 型 : 1 検体

その他のウイルス (32 検体)

ヒトヘルペス 6 型 : 11 検体 (5 月以降増加)
パルボウイルス B19 : 21 検体 (5 月以降増加)